

会 議 録

会議の名称	平成31年度第1回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会 補助金審査部会（地域魅力アップイベント創出育成事業、産業活性化 プロジェクト促進事業）
開催日時	平成31年4月16日（火） （午前・ 午後 ） 3 時 00 分 開会 （午前・ 午後 ） 5 時 00 分 閉会
開催場所	茨木市役所 本館3階 第2会議室
議長	野口 義文 氏（立命館大学産学官連携戦略本部）
出席者	野口義文氏（立命館大学 産学官連携戦略本部）、伊津田崇氏（中小企業 診断士）、辻田素子氏（龍谷大学 経済学部）、森本康嗣氏（公募市民） 【4人】
欠席者	小牧義昭氏（北おおさか信用金庫 総務部）
事務局職員	徳永商工労政課長、武部商工労政課商工振興係長、 浦商工労政課職員、西居商工労政課職員 【4人】
開催形態	一部非公開
議題（案件）	(1) 会議の公開について (2) 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業及び茨木市産業活性化 プロジェクト促進事業補助金趣旨説明 (3) 応募団体プレゼンテーション及び審査
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金募集要領 ・資料2 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金の選考について ・資料3 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金 審査基準及び配点表 ・資料4 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金募集要領 ・資料5 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金の選考について ・資料6 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業 審査基準及び配点表

議事の経過

1 開会

事務局：(開会のあいさつ)

2 趣旨説明

事務局：(資料1～6説明)

3 会議の公開について

事務局：①本部会について

原則公開とし、市民等の傍聴を認める。ただし、申請案件の審査に関する部分は、非公開とする。(※茨木市審議会等の会議の公開に関する指針第3より)

②議事録について

公開部分については、市のホームページ等で公開する。ただし、内容は要約したものとし、個々の発言者の名前は記載しない。

③傍聴希望者：なし

4 応募団体プレゼンテーション及び審査

(1) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件：

1件目のIBARAKI JAZZ CLASSIC FESTIVAL 2019 実行委員会（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A委員：市外からも多く来場しているが、市外へのPR方法は。

申請者：阪急電鉄株式会社の情報誌であるTOKKや出演ミュージシャン自身の宣伝により、PR効果が期待できる。昨年度は地震により告知が遅くなったが、今回はすでにチラシデザイン等も決定しており、早い段階での告知が可能だと考えている。

A委員：会場を2ヶ所ほど増やすとのことだが、具体的に場所はどこか、またその狙いは何か。

申請者：昨年度開催時は、商店街の奥まで来場者が入って行かないステージの設置であったが、今年度については、商店街内を通る人の動線を作るようにステージを設置する。たとえば、阪急本通り商店街であれば、リノベのいばらき周辺である。

A委員：商店街への集客等を掲げているが、商店会との連携等は具体的に決まっているか。

申請者：商店会と連携し、来場者へのサービスとしてパンフレットの広告主に依頼し、クーポンを付けるなどして商店街への集客を図る予定である。

B委員：団体名の末尾に2019とあるが、毎年団体は変わっているように見受けられるので検討すること。また、団体は継続的なものか。

申請者：継続的なものである。名称については今年度検討する。

B委員：今回2ヶ所ほど会場が増えるが、警備員の人数は昨年度と同様である。今年度の警備についてどのように考えているか。

- 申請者：警備については、警察に相談したところ、自己警備で足りるとの返事があった。
ボランティアスタッフで対応すれば全く問題ないとのことなので、昨年度同様ロ
サヴィアに1人、ソシオに2人配置する。新規会場のリノベのいばらきについて
は室内なので、基本的には警備は不要と考えている。
- C委員：協賛金について、将来的に増えると見込んでいるが、現在どのような企業が協賛
しているか、また、今後どのような企業の増加が見込まれるか。
- 申請者：昨年度は茨木市内に事業所を有する大手企業を含め、50社ほど集まった。今年度
は、企業向けの協賛金1口の金額及び個人経営店舗向けの協賛金を昨年度よりも
低額にし、1年目よりも3割程度の増加を予定している。今後も継続して同様の
割合で増やしていきたい。
- C委員：2年後には来場者が8,000人になると見込んでいるが、来場者の年齢層等のター
ゲットについては、どう考えているか。
- 申請者：茨木市内では、他にも様々な音楽系のイベントがあるが、それらとの違いとして
来場者の層は40歳以上が多い。この違いは今後も明確になっていくものと思われ
る。＜※＞初回に一定の集客実績ができたので、今回は市民向けの広報に注力し
たい。また、大学とも連携し、若者も巻き込んだ集客を考えている。
- D委員：昨年度の収支決算書が添付されていて、ステージが2ヶ所増えるとのことだが、
昨年度に比べ報償費が下がっていて、広告費が上がっている。これはなぜか。
- 申請者：ステージが増える関係もあり、予算も限られているため、報償費については減額
せざるを得ないのが実情としてある。
- B委員：来場者数の確認について、どのような方法で計測しているか。
- 申請者：来場者受付がないため、正確な人数は確認できないが、会場入り口にて計数器で
計測しており、今後も同様の方法で計測する。

(2) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件：

2件目のIR+OICフェスタ実行委員会（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイ
ント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

- A委員：災害復興等を主に茨木をPRすることのことだが、大阪餃子まつりとどう関連させ
るのか。
- 申請者：（自身の事業活動との関連から）集客にも一定の効果が見込まれることから、開発
中の餃子のタレも使用し、茨木の食をアピールしていく。
- A委員：集客見込みが8,000～10,000人とのことだが、数値根拠やPR方法等はどうか。
- 申請者：株式会社ジュピターテレコムに協力してもらい、地域コミュニティーチャンネル
でPRし、阪急電鉄株式会社にポスターの掲示を依頼する。市広報誌にも掲載し
てもらう。
- C委員：このイベントは時限的なもので、期間がある程度決まっているものなのか。
- 申請者：茨木市の飲食関係事業者の復興を趣旨としたイベントであり、数年後に復興が達

成されたと判断できれば、その意義はなくなる。しかし、今年度も含め、数回は実施したいと考えている。

C委員：実行委員会のメンバーはどのような方々で構成されているのか。

申請者：さくらまつりで関わったメンバーがメインである。

C委員：これまでに何回このメンバーで集まって、企画書等を作成したのか。

申請者：集まって2回で企画書等は作成した。

C委員：後援欄にある予定となっている自治体やその他団体については、現在どの段階にあるか。

申請者：茨木市の後援が得られれば、商工会議所や観光協会からも後援が得られる予定。大阪府には、まだ接触をしていない。

B委員：今回のイベントのメインは、イベントを実施するものなのか、出店をして何かを販売するものなのか。

申請者：イベントの企画・運営として考えている。出店者から出店料を徴収し、出店してもらう。

B委員：支出のところに、ドリンク用カップ等が消耗品の補助対象経費として計上されているが、こちらは対象外である。

申請者：わかりました。

B委員：衛生対策や災害対策が計画立案までされているが、実施体制はどうなっているか。

申請者：実施体制はまだ作っていない。立命館大学側の指示のもと今後動いていく。

A委員：6月23日開催予定とのことだが、間に合うのか。

申請者：間に合うと考えている。実施に関しては、立命館大学とはある程度詰めることができおり、店舗については、補助金の審査が通ってから集めていくことになる。

D委員：食のまち茨木としては、キラコンテンツも必要かと思うが。

申請者：農産品としても赤しそ等があるので、こちらも押していきたい。

(3) 産業活性化プロジェクト促進事業申請案件：

1件目の陶芸体験教室アトリエ信（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A委員：道祖本は読み方が難しく、商品のネーミングはとても大切なものなので、歴史等と絡めるなどしてはどうか。

申請者：ネーミングについては再度考える。

B員：粘土のメーカーになりたいのか、粘土を使ったサービスを行い、地域に貢献したいのか、どちらに力点を置いているのか。

申請者：私自身は道祖本焼きの作家としてやっていきたいと考えている。

D委員：道祖本焼きは、商品としてのクオリティーにおいて差別化できているか。

申請者：今年度は7月と10月にそれぞれ百貨店において個展の形式で出展できるよう話し合いを進めている。それまでに粘土の状態を安定させていくつもりであるが、クオリティーについては、未知数であり、差別化には至っていない。

(4) 産業活性化プロジェクト促進事業申請案件：

2 件目のたたらば珈琲（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A 委員：この事業は、初めての試みということだが、商店会としては参加する意思はあるのか。

申請者：私自身が商店会の会長であり、店舗に説明して回り、了承を得ている。

A 委員：職人によるワークショップ等とあるが、具体的にどんなものを考えているか。

申請者：アイシングクッキー作りなどの親子で参加できる催しを考えており、費用的には 200 円から 300 円程度を予定している。

A 委員：開催時期はだいたい何月頃か決まっているか。

申請者：9 月頃を予定している。

B 委員：予算の大半をしめているスタッフ人件費の内容はどのようなものか。

申請者：商店会のマップを作成し、大学生をアルバイトとして雇い、長期にわたってポスティングしてもらう。

B 委員：補助金の交付期間が終了しても継続して取り組むことができるか。

申請者：現在、福德商店会には 23 会員しか居ないが、この枠を広げていくことを考えている。認知活動を継続することで、商店会に入るメリットができ、入会する店舗が増えるので、資金的にも余裕ができ、自立できると考えている。

C 委員：個人としてこの事業を推進してくのは、荷が重いように思うが。

申請者：商店会の会員は、個人事業主としてスタッフを抱えていない店舗しかないため、スタッフを抱え、比較的時間を確保できる自分自身でまずは活動を続けていく。そうすることで、協力してくれる人が増えると期待している。

C 委員：集客の見込みはどの程度を考えているか。

申請者：自身の店舗の折り込みチラシで 20,000 枚程度印刷しポスティングした際、数百人規模での来店があった。このことから推測し、一定の規模の人数は見込めると考えている。

D 委員：たたらば珈琲は福德商店会の 23 会員の 1 つか。

申請者：23 会員の 1 つである。

D 委員：この事業を続けるモチベーションは、商店会で管理している街路灯の維持管理から来ているのか。

申請者：そのとおりである。商店会全体にバイタリティーがなく、自身で何かを始めなければならないと感じている。

D 委員：この事業を継続すれば、街路灯を維持できる見込みはあるのか

申請者：あると考えている。安価で維持管理できるよう電気屋へ依頼し、あと 10 店舗でも会員が増えれば、維持管理できることがわかっているため、あともう一步のところまで来ており、会員数の拡大を目指している。

【 審 査 】

5 審査結果

- (1) IBARAKI JAZZ CLASSIC FESTIVAL 2019 実行委員会
400 点中 274 点 ⇒ 採択案件
- (2) IR+OIC フェスタ実行委員会
400 点中 232 点 ⇒ 不採択案件
- (3) 陶芸体験教室アトリエ信
400 点中 244 点 ⇒ 不採択案件
- (4) たたらば珈琲
400 点中 271 点 ⇒ 採択案件

<選考基準>

出席委員の評価点合計の 65%以上を取得した事業を、採択案件の候補とする。
ただし、上記基準を上回る事業であっても、個人の総得点の 1/2 (100 点×1/2=50 点)
以下の点数を付けた委員がいる場合は、協議のうえ採択候補案件を決定する。

以上